

知恵の樹

No. 193 2015. 6. 23

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

代表就任にあたって

市民の立場で 図書館の発展をめざします 手嶋孝典

この度、本会の代表に就任しました。

本会の前身は、10回の準備期間を経て1984年4月に発足した「町田市立図書館をよりよくする会」(以下「よりよくする会」)です。1996年4月には、現在の名称に改名しています。会報「知恵の樹」は、その年の7月に創刊されました。

私は「よりよくする会」の第1回準備会が行われた1983年5月から活動に参加しています。故・浪江虔先生が町田市立図書館をもっとよくするためには、市民の活動が大切だと考え、実践されようとしたことに共鳴したからです。初心を忘れず、浪江先生のご遺志を受け継いだ活動を続けたいと考えています。

図書館で働く職員やその職員で構成する労働組合が活動に参加しているのは、本会の特長でもあります。現在、自治労町田市職員労働組合図書館六分会協議会と自治労町田市図書館嘱託員労働組合の2つの労働組合が団体加入しています。図書館で働く者と市民が一緒になって図書館を創り上げていくことをめざしたいと思います。

これまでの私の本会との関わりは、図書館で働く立場からのものが中心でした。今年の3月で再任用期間も終わったので、これからは市民の立場で図書館と関わることになります。

図書館サービスの3要素は、施設、資料、職員とされていますが、町田市立図書館が直面している喫緊の課題は、図書購入費を始めとする資料費の減額にあると認識しています。資料費を何とか

確保しようとする結果、他の図書館費をも削減する結果になっており、図書館運営に支障が起きつつあります。資料費以外の経費を切り詰めるのは、もう既に限界だからです。

このことを市民と職員の知恵の結集により、何とか打開したいと考えています。もちろん、簡単にはいかないであろうことは承知の上です。それでもこの課題に取り組まなくては、図書館の発展は望めません。地方自治を「由らしむべし、知らしむべからず」で済ませようとするのではなく、そこに住む市民が賢くなることにより発展成長させようとするなら、図書館が充実していることが何よりも大切なはずです。

それから、今年の3月に実施された図書館のシステム更改についても、利用者側からの検証が必要だと思います。システム更改の結果についての検証も大切ですが、それを支える図書館のサービス理念が基本的なところで変わってしまったのではないかという指摘が会員の中から出ています。具体的には、今までの町田市立図書館の根本思想ともいえるべき「利用者にしてできる限り貸す」という姿勢が変容したのではないかというものです。これはとても重要な指摘だと私は思っています。会としても時間を掛けて検証する必要があるのではないのでしょうか。

市民の「知る権利」を保障する機関である図書館を発展させるための活動にささやかではあります。が貢献したいと考えています。図書館をこよなく愛する皆様の叱咤激励をお願いする次第です。

図書館サービスとは？

～ひそかにエールを送ります～

齋藤 祐子

図書館サービスとはなにか、といわれたら、少しでも図書館に関心ある人なら、いくつもの答えを思いつくに違いない。

話題になった本はもとより、昔のベストセラーだけれど爆発的に売れすぎたがゆえに、リアルな書店の棚にはさっぱり見かけない本・すでに絶版になった本を探せる場所、あるいは個人で買うには高価な専門辞典などの宝庫。落ち着いてゆったりと大型本を眺められ、場合によっては借り出せるところ。そして、レファレンスサービスのあるところ。ちょっとした興味関心や、夏休みの宿題の際に、こんなことを調べたいと尋ねるとまるでコンシェルジュのように相談に乗ってくれる強い味方。児童書や童話、紙芝居のコーナーでは読み聞かせや紙芝居の会もあり、何歳の子供にはどんな童話がいいか、お母さん方に評判のいい絵本はどれか、尋ねればあれこれ教えてくれるだろう。

最近ビジネス書の多い図書館が、起業支援を始めるなど、活動の幅も支援の相手先もひろがっている。

フランスでは早くからアニメーションという活動があり、本のジャンルの数だけ市民とのかかわり方や講座が実施されてきた。図書館にある本を媒介とすれば、哲学から楽器の進化、人口統計や科学の歴史など、それこそあらゆるジャンルをテーマにした講演会やら交流会ができるというわけだ。

そこまでではないにせよ、日本の、さえない小さな図書館だって(失礼!)多くの高価な専門書を無料で手にできるというだけで、昔も今も貧乏な学生の強力な助っ人だし、常に自分に付加価値をつけるよう専門知識や最新の情報を得なければ社会のスピードの速さに振り落とされる会社員にとってもありがたいツールだ。

あらたに知識を得なければならなくなって途方に暮れて、書店で専門領域の参考書を手にと

てみても、どれがいいのかわからないとため息をついたら、まずは図書館に行ってみることをおすすめする。多少古くても、参考書やら解説書を見つけることができるし、試し

読みはもとより借り出して熟読することもできる。レファレンスサービスに行けば、ある特定のテーマに沿って調べることもできるし、そこにはない図書についても、取り寄せてくれる場合もあれば、もっと専門書の多い図書館を紹介してくれるかもしれない。なによりも一人で不案内な領域を調べる際に、思わぬ助けを得られるはずだ。

図書館に行く人は、本を自腹で買うこともない人たちだから、有料の催しものの案内を送っても仕方がない、といっている人がいたけれど、その人はきっと図書館で調べ物をしたことがない人に違いない。図書館は無料の貸本屋かなにか、大衆的なベストセラーばかりが借りられていて、あとは無料で長時間勉強できるからファミレスに行くお金を節約する、スマホ代にお金を使いすぎた高校生みたいな人しか行かないんじゃないか、とか。

ある意味、そういう偏見に満ちた人たちを相手に、図書館は自分たちの存在意義をPRしなくちゃいけないのかもしれない、だとしたら大変だなあ、と思う。

ちゃんとしたところで研究や勉学の基礎を習ったはずの高学歴の人でも、研究やレポート書きのために文献を調べる場所としてどれだけ図書館が大事なのか、ということがわからない。あるいは、若いころは遊ぶのに熱心で、それほど真剣に勉強をしなかったのだろうか。

そういう大人相手に、入館者数とか貸出冊数で、どれだけ図書館が地域の皆様の役に立っているかをアピールしなければならないのはなんだか理不尽で涙が出てくる。

地元の図書館のフロントスタッフが民間業者に変わり、コンシェルジュという名札をつけた人が登場した。何をやる人ですか？ と試しに聞いてみた。総合受付、インフォメーションのようなことをする人らしい。貸出カウンターに長い行列ができると、さっとそれを手伝いに行き、車いすの人が来館す

るとさっと何か手伝いが必要かと聞きに行く。

指定管理者制度には批判が多い。目につく場所で、目に見えるサービスを試みせるのももちろん必要だろう。でも、そういう「図書館が初めての人むけの親切なサービス」や「図書館は本をただで貸し出すところ」としか思っていない人相手のアピールと同じくらいの力を入れて、調べ物のコーナー＝レファレンスサービスがしっかりできる職員を育てて欲しい。残業で疲れ切らないようちゃんとした人員を確保してほしいし、その職員たちにはたまには研修にだって行ってほしい。そうやっている取り組みをしている他の館の事例を吸収して、

たとえばユニークなテーマのおすすめの棚を作るような、ワクワクするようなアイデアをだしてくれればもったいいい。たいして読書が好きでもない若者向けに、ビブリオバトルなんかどんどんやって、若い子にも読書の楽しさをじゃんじゃんひろめてほしい。

図書館好きの一人として、ウェブの時代にも図書館は素敵であってほしいから。

疲れることが多いだろうけれど、苦勞しながら新しい図書館サービスを日々考えている図書館職員にひそかにエールを送ります。

(団体会員)

寺田和雄さんと市民文学館

守谷信二

去る5月2日午前0時26分、前市長の寺田和雄さんが肝臓癌のため83年の生涯を閉じられた。6日の通夜、7日の告別式は近親者のみで済まされ、30日には参列者600人を超える盛大なお別れの会が、現市長を代表とする実行委員会によって市内のホテルで執り行われた。

寺田さんは、市民文学館の生みの親である。若い頃から本と山を愛し、自ら文章を書くこともお好きだった。1997年に作家・遠藤周作氏の資料の一部が市に寄贈されたのをきっかけに、以前から暖めておられた文学館構想を具体化し、図書館を所管課として2002年から本格的な準備がスタートした。

しかし、文学館構想には批判の声もあった。文学好きの市長の趣味だとか、「ハコモノ行政」だとかいった声が、準備担当を命ぜられた私などの耳にも時おり入ってきた。

文学などという凡そ実用から遠いものと、実用そのものでしかない政治との切羽で、寺田さん自身苦闘されていたのかもしれない。ただ、寺田さんの中には、自身が日々の読書を通じて発見した、数多くの文学者によって描かれた町田の姿があった。それはまた、自身が子どもの頃から親しんできた懐かしい風景でもあった。その町田

が、時代の流れとはいえ、みるみる変貌していくのに耐えられなかったのではないだろうか。

寺田さんにとって文学館の開館は、文学好きなどという個人のレベルを超えて、この目に見えない町田の財産を、何とかまちづくりに生かしたいという、政治家としての意思であったように思う。

文学そのものは、すべての市民に必要な不可欠というものではない。だが、人と時とを得たときに、それが人間の心を根底から揺さぶり、人生を豊かなものにし得る大きな力を持っていることは疑いのないことである。

全国各地から集まった市民によって構成されている町田のような都市では、地元を描いた多くの文学作品が市民の文化的紐帯として機能し、他の都市とは異なる独自の郷土意識を育む役割を担うことがあるのではないかと。

生前に刊行された4冊の著作、『わが山旅、まちだ文学散歩』(町田ジャーナル社)、『山憶い都市想い』(茗溪堂)、『千曲川源流紀行』(同)、『ふるさと町田文学散歩』(同)には、寺田さんのそうした想いが込められている。

文学館職員として、これらの本の刊行を僅かながらお手伝いできたことを、誇りに思っている。

第15期図書館協議会 第18回定例会

2015年6月4日(木)15時～17時 (傍聴1名)

・協議会委員の交代(5/1付):伊藤昌克氏(山崎小学校校長)⇒増川知子氏(三輪小学校校長)に。

《館長報告》

1. 教育委員会関係

○市民文学館ことばらんど

- ・翻刻『草神楽』の刊行…文学館の市民研究員制度による五十嵐浜藻・梅夫研究会との協働事業
- ・子どもも楽しめる企画「宮沢賢治 イーハトーヴの鳥たち」展／同時展示:国松俊英氏の「宮沢賢治 鳥の世界」開催 (7/18(土)～9/23(水) 無料)

2. 忠生図書館開館(5/1(金)) その後

・オープンして1カ月。貸出、予約件数などは徐々に増えている。1日平均1067冊。

3. その他

・2015年度予算(下表太字参照)

*図書館費について

2014年度は、忠生図書館開館準備、システム更改等により一時的に増額されたが、2015年にはその分、減額(約3億)になっている。

*資料費について

資料費確保のため他経費を切詰めてきたが、もう削れるところがなく、資料費を減額せざるを得ないのが現状との説明。2015年度資料費では図書で前年比74%、視聴覚で55%の大幅な減額。

(単位千円)

	2012	2013	2014	2015	
図書館費	638,587	690,737	1,071,174	744,384	
資料費	図書	82,611	58,467	54,191	39,865
	雑誌	(雑誌?)	(雑誌?)	≒9,263	≒8,888
	視聴覚	2,350	2,190	2,223	1,218

(2012・2013年度の数値については、比較しやすいよう編集時に市情報を参考に加筆、表で示した。)

・鶴川駅前図書館セルフ予約資料受取時間の拡大について…5月1日より木(第2木除く)・土・日・祝休日の閉館後17時から20時まで延長

・嘱託員採用について…5月募集、選考中。8月1日6名採用予定

☆委員からの質問・意見

- ・忠生図書館開館による同図書館の利用者分布や木曾山崎図書館の利用者動向への影響分析は?
- ・図書館側答弁:今後の課題。新システムによる分析を検討。
- ・予算について意見続出/資料費の減少率が激し

すぎる。市全体の予算についても、子どもに関する予算が削られているのが気になる。学校関係予算も、学校によって格差はあるが、3割強の大幅減額となった。3万円以上の備品費は0円なので、必要な時は消耗品から捻出するなどやりくりしている状態。

・8月より新期となる次期協議会へ、今後の課題として予算問題を引継ぎたい。

・「学校図書館に関する要望」を「町田の学校図書館を考える会」が教育委員会に提出。学校図書館法改正を受けての町田市政の方針について質問したが具体的なプランは提示されなかった。

《協議事項》

○図書館評価について

第一期図書館評価“外部評価実施による提言”に対する図書館側のコメント

・利用者アンケートの実施方法についてよりこまめに行うべきとの提言…現状は3年ごとの実施(外注)だが、予算削減により方法を検討中。

・ホームページの改善要求…新システム導入により改善した。

・資料収集方針の見直し検討要求(成文化、積極的公開を要求)…中央館開館以来見直しを行っていないので、今後見直しを行う。

・委員長提言:収集方針検討に協議会の意見を取り入れることも検討して欲しい。(藤沢市事例参考)

*第二期の図書館評価についてのスケジュールが提示された。

《その他》

「町田市子ども読書活動推進計画推進会議」委員の推薦について(教育委員会からの依頼)…協議会委員の任期満了(7/31)に伴い、協議会から1名委員を推薦する。(次回定例会で決定予定)

★次回第19回定例会

6月25日(木)15:00～

於:町田市民文学館大会議室

傍聴自由。直接、会場へお越しください。

<S委員より>

協議会の後も予算のことが気になって町田市のホームページでいろいろ調べてみました。

図書館毎の予算を調べましたが、2011年度がピークで1億7百万円、その後、どんどん減っていて、2015年度は図書館が2館増えているのにもかかわらず、2011年度のたった37%です。

教育関係者も協議会の中で、学校関係費の大幅削減に嘆いておられましたが、協議会としてしっかり取り組んでいかなければなりません。

報 告

第9回 2015年度 図書館友の会全国連絡会 会員総会 開催

2015年5月25日(月)午後1時～3時まで日本図書館協会研修室にて表記総会が開催され山口が出席しました。

議案は、2014年度活動報告、会計報告、監査報告がなされ、いずれも承認。その後、2015年度運営委員の選任(22名)が行われ、委員内の互選により、福富洋一郎氏が代表、船橋佳子氏が事務局長に就任しました。町田の図書館活動をすすめる会会員の田村修氏も個人会員の資格で運営委員に就任されました。

その後、船橋事務局長の司会の下、2015年度活動方針案、予算案が審議され承認されました。

なお今回は、会費値上げによる会則改正提案があり、図友連の活動の広がりと共に、諸経費を従来の会費 1,000 円のままでは組織運営が困難であることから、2,000 円への値上げが提案され、満場一致で承認され、来期(2016年4月)より、個人・団体ともに(会員は議決権1票なので)等しく2,000円ということになります。

この会費に関しては、個人・団体ともに未納者が発生しており、それが会の財政を圧迫する上に、ML等の情報提供において納入会員との不公平感もあるという事から運営委員会にて対応策を協議することが確認されました。

また、経費削減と個人情報保護のため、名簿郵送の廃止案も承認されました。

その後、15時より参加者による交流会が開催さ

れ、各地の図書館を巡る状況や各会の活動の様子が披露されました。

新規に参加した会員もありましたが、各地とも図書館の民営化やサービスの後退など様々な

問題を抱えており、一人3分以内のスピーチでは十分な状況把握や議論はできませんでしたが、市民が身近な公立図書館を自分たちの図書館として守り育てようとする意気込みが感じられました。

各地域の市民による図書館運動を基盤に、全国各地の活動と連携し、情報提供や刺激を受けることの大切さを感じた1時間でした。

なお翌日は、参加可能な会員による1日がかりの国会議員へのロビースト活動が実施され、今年は図書館協議会必置を求める図書館法改正の要望書を配布しました。

秘書対応が多い中で、議員本人との面談が叶った事例もあり、その結果が、6月16日(火)午前10時から12時の間に行われる参議院文教科学委員会での那谷屋正義参議院議員による「図書館協議会」に関する質問につながりました。

毎年にもわたる継続したロビースト活動の大切さと、市民の粘り強さを改めて感じる出来事です。

(山口 洋)



活動報告をする山口氏

30年記念誌

いまむかし

30年の活動記録

- ・1984年度～10年(10年誌を補足)
- ・1994年度～2013年度
- 平成6年度～平成25年度—



NPO法人まちだ語り手の会

B5判・88頁・頒価 500円

市民活動30年の記録 ぜひ手に取ってお読みください!

本会団体会員である「NPO まちだ語り手の会」は、1984年4月発会し、ストーリーテリングを中心に学校や図書館・介護施設・文庫などで活動を展開、2014年春に30周年を迎えました。

その間毎月出し続けた会報「いまむかし」359号をひもとき、その膨大な活動の中から、全容を余すことなく記録集として編纂し、先月500部を刊行。市立図書館全館にも寄贈しました。

関係各位からの寄稿文を含め、おはなし会活動に示唆を与える記事が満載。ご希望の方は、まちだ語り手の会下記事務局へ。

☎&Fax:042-795-3022/E-mail makatari@a09.itscom.net

町田の学校図書館を考える会

学校図書館に関する要望を 町田市教育委員会教育部長に 提出

国会にて、学校図書館法の一部改正(自治体の努力義務とはいえ「…司書教諭のほか、学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員(次項において初めて「学校司書」と明記)を置くよう努めなければならない」)がなされ(2014年6月)、2015年より施行が始まった。しかし、町田市の図書指導員制度(有償ボランティア)は、10数年にわたってほとんど改善されないとして、町田の学校図書館を考える会は、町田市教育委員会教育部長に面談を申し入れ、去る5月22日に下記項目を記した「要望書」と、「町田市の図書指導員の現状について」を手渡した。(編)

- 現行の図書指導員制度を見直し、専任・専門の学校司書配置を公募で実施すること。
- 公募に際しては、待遇などを近隣自治体と差のないものとし、正式な雇用契約を結ぶこと。
- 学校司書の名称を使うこと。
- 改正学校図書館法にもある通り、研修の充実を図ること。
- 学校長などの管理職や一般教員に対し、改正学校図書館法の意義と学校司書の役割の重要性について十分な理解を促すため、機会を設けること

要望書・項目

町田市の図書指導員の現状について

● 専門性がまったく問われない

全国約半数の小中学校にいる学校司書(もしくは学校図書館担当職員)の資格要件などは自治体毎に異なりますが、先進的な実践を行っている学校では、間違いなく専門性の高い有資格者が当たっています。意欲に富み、自主的な研鑽に励み、学校司書の仕事をライフワークとして取り組んでいるからこそ、その成果が現れます。ボランティア精神も結構ですが、明確な自覚を持った有資格者に、仕事として責任を持って働いてもらう必要があります。

● 学校長裁量での配置

保護者やPTA出身者が図書指導員になることも多い現状は大変憂慮すべきものです。特に学校司書の実践が数多く蓄積され、研究も進んできた現在では、学校図書館の自由などが大きなテーマとなってきています。地域の方々力を借りることはとてもいいことですが、そのことと、専門家としての学校司書が学校図書館で仕事をし、日々子どもたちに接することとはまったく別の次元の話です。ボランティアと専門職としての学校司書を混同することは、あってはならないことです。

● 短期間で人が交代する

図書指導員制度自体の欠陥(身分の不安定・待遇の悪さ)から当然のことですが、年に何人もが入れ替わり立ち替わり、という学校もあるようです。学校図書館はまだまだ作り上げられておらず、蔵書構成も不十分な学校がいくつもあります。先ず使える学校図書館にするために最低5年はかかる



思われるのに、明確なイメージもなく、人が入れ替わるのでは、授業に使える学校図書館には到達しません。さらに教員や児童生徒との信頼関係の構築にも問題が生じます。人の入れ替わりを防ぐには、身分保障が必須です。

● 時間が短かすぎる

— 実際には無償ボランティアを強要することにも

特に小学校では、図書の時間に使われることが多く、図書指導員の時間(1日4時間まで)が考慮されていないケースも多いようです。つまり18学級の学校で週に18時間図書館を使えば、図書指導員が他に使える時間がほとんどないことになります。書棚の整理や新着本の整備などなど、事務作業に割く時間がなくなってやむなく無償ボランティアをしている人もいます。こうした現状は今すぐにも改善されなくてはなりません。

● 初任者研修は必要ないのか

横浜市が4年間かけて全校配置を始めましたが、その初任者研修は1週間かけて丁寧に行われます。また杉並区でも同様に計10回の研修が初めに義務づけられており、それ以降も毎月のように学校司書の実践交流会などを開いています。学校図書館は「一人職場」ですから、他の学校を見聞すること、他の司書の仕事を知ること、いろいろな情報を持ち寄ることなどは絶対に必要なことなのです。しかし町田では、学校内だけに留まり、外へ研修に出かけていけない図書指導員が圧倒的多数です。

町田市立図書館の選書は原則として見計らい方式(実際に本を見て決める)を採用し、選定会議により購入している。昨年度後半より、さるびあ図書館の本の選定会議に委員として参加していることから選定会議について、少しご報告したい。

会議は、毎週木曜日に選定委員(各館から1~2名)が集まって中央図書館で行なっている。

新刊書については、町田市の収集方針に沿って日販が選んだものが、毎日、中央図書館に送られてくるが、送品から漏れたものや利用者からのリクエストのあったもの等は、別途図書館が注文する。

会議の司会進行と発注記録は中央図書館の職員が担当し、午前10時から始まり、児童書から一般書の順に司会が1冊ずつ読み上げ、購入する館が意思表示していき、昼食をはさみ、午後4時ごろまで続く。1回の選定会議での見計らい本は、平均500冊前後で、その時によって冊数は違う。

さるびあ図書館の選定 —4/30の実例から—

まず2日前に選定準備を行った。新刊書の選定リストを業務端末から打ち出し、リストと図書館が発注して取り寄せた1号リストと3号リストをファイルに綴じる。1号リストは返品可能な町田市が購入できない可能性のある本(高価本や専門的過ぎる本やDVD付きや書き込み式の本など)、3号リストは返品不可な町田市の選定基準で問題のない購入を前提とした比較的新しい本。

次に、自館のリクエストがある本を優先して、書名・著者名・分類・書誌情報・金額を考慮しながら、購入予定本をリストアップする。今年度のさるびあ図書館の一回の選定会議での予算額は6万6千円なので(後述)、当日追加発注割り当て分も考慮して一般書2万4千円、文学1万8千円、児童書1万8千円を目安にして選んでみた。しかし、リストアップした一般書については予算オーバーになったため、図書分類や金額などを見て、分野が偏らないよう調整して購入予定本を選定リストにメモ書きを行った。児童書については、児童担当に意見を

聞き、メモした。

選定会議当日は、会議が始まる1時間半前の時間を利用して、見計らい本を手に取り、内容チェックを行い、購入予定本リストの見直しと購入再検討する本の洗い出しを行った。また、さるびあ図書館に割り当てられたリクエスト発注本5千円分を予算額から差し引いた6万1千円になるように考えて会議に臨み、3号リスト、1号リストと予定した本を購入した。

今回の児童書の見計らい本は54冊、その内さるびあ図書館は13冊(17,842円)を購入、3号・1号リストでは一般10冊(11,320円)、文学4冊(2658円)を購入した。続いて、新刊書の選定では、中央館や他館の購入状況に応じて購入予定していた本を変更しながら選定した。中央図書館が購入しなかった本で予定リストから落とした本を購入したり、多数館が購入しようと手を挙げた本で降りたりして調整。結果として、さるびあ図書館では一般書24冊29,610円(見計らい本368冊)、文学13冊15,258円(見計らい本163冊)を購入した。

さるびあ図書館の1回選定会議予算6万6千円について

今年度の図書購入費の予算額は386万7千円(前年度595万9千円、2011年度1,030万円、とこの5年間で大幅に削減されてきた)、児童書と文庫本などの買い替え予算として50万円を除いているため残りの336万7千円を50週で割った金額が1回の選定予算となる。さるびあ図書館と図書購入費が同程度規模の金森図書館では買い替え予算が15万円と少ないので、今回の予算は7万5千円であった。今年度の予算は厳しく、中央図書館の予算も1,600万円に抑えられている。その中での選書なので、複本を控えたり、分担して購入するようになり、多種多様な本の購入に努めている。

そういった状況なので、今後リクエストされた本を購入できないケースが増えるかもしれないが、できるだけ利用者の要求に答えられるよう、選書していきたい。(会員)



ひろば

定例会 5/26(火)

- ・16:30～192号刷(伊・手・多・他)
 - ・18:00～20:00 中央図書館中集會室
- 出席: 石井、河合、久保、近藤、清水、高橋、多田、手嶋、増山、守谷、山口、渡辺彰

● 192号会報について

・忠生図書館開館式に招待された会員(協議会委員他)に感想を寄せてもらった。鶴川のポプリホールに比して、地域密着型で住民のニーズに応えた複合施設となっていると好評。こうした式典時にいつも感じるのだが、挨拶はお歴々の人達ばかり。準備に関わった職員やこれから図書館を担っていく職員等の紹介がないのは何故なのだろう。これら職員を紹介し、ねぎらい、エールを贈る、という式典こそ、図書館の活性化につながると思うのだが・・・(M)。

● 193号について(⇒今号をご覧ください)

● 2015年度の活動計画について

▷講演会 <予定候補>

- ・3月の図書館子どもまつりに、昨年同様広瀬恒子さんの「子どもの本の紹介」を依頼する
- ・図書館大会分科会で報告した佐々木央さん(ジャーナリスト)に打診。予定は9月か11月。

▷図書館見学&図書館サポーターとの交流

・岩手、静岡の図書館が候補に挙がったが、次回定例会までに、見学希望図書館を考えておく。

● 町田市立図書館のシステム更改について

・各館システムが違うことから、それぞれ利用した立場で話し合う。貸出停止の取り決めがシステム化され、人が介入しないというのはいかがなものか、という意見が出た。レアケースに合わせて、大多数の人が使いにくくなってしまっている。借りてもらうことを優先的に

2015年度第4回(通算98回)

文学館(主催)で楽しむ おとなのためのおはなし会

7月16日(木)10:30～11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム

- ・町田ゆかりの作家:「佐藤友之」 市川美奈
 - ・ふしぎなやどや(長谷川摂子作) 遠藤美子
 - ・茂吉のねこ(松谷みよ子作) 佐々木令子
 - ・年をとる家(三田村信行作) 佐羽悦子
- 直接会場へどうぞ! 保育有

問合せ:町田市民文学館 ☎042-739-3420

考えていいのではないか。今後、会報で利用者の声を取り上げる。

● 「すすめる会」に推薦依頼があった「町田市立図書館第十六期委員」4名について…3名継続、多田美恵子さんが辞退のため、候補者を挙げ打診(⇒代表発信:5日(金)に近藤館長宛てに推薦文書を提出しました。被推薦者は、以下の方々です(敬称略)。久保礼子(第11期～)/清水陽子(第15期～)/鈴木真佐世(第15期2014年4月1日～)/齋藤美智子(新任))。

● 町田市図書館嘱託員労働組合定期大会への招待…手嶋代表が出席

● 嘱託労より…「知恵の樹」の配布部数を増やして欲しいとの依頼。必要部数を確認の上、対応。

● 図友連関係/総会について(p5参照)

・図友連の活動記録…日図協で閲覧できることに
・文部科学省へ「図書館協議会を必置とする法改正等の要望書」を提出/1. 公立図書館には図書館協議会を必ず設けなければならないとすること、及び、図書館協議会委員の任命はいわゆる公募枠を必ず設けて行うこととする法改正を行ってください。2. 地方交付税措置に関し、市町村立図書館の図書館協議会委員の報酬に関して、都道府県立図書館と同様に積算根拠に明記するようにしてください。3. 全国の図書館協議会の状況と課題を把握するため、悉皆調査を行ってください。

● 「学校図書館に関する要望」書を提出(p6)…感触はよくなく、今までと変わらなかった。

● 自由民権資料館の「浪江資料」を整理中…これまで手嶋さんと野沢さんが参加して、杉山さんを中心に(学芸員)3回おこなった。手伝える人は申し出て欲しい。日時等は未定。手嶋さんまで。

あとがき 「2015年度予算・小中学校管理備品費 6千万円→0円にバツサリ削減! 一方文化芸術ホールなど大型プロジェクトは目白押し、障がい者福祉予算も削減、介護保険料値上げ…」ポストに入っていたK政党町田市議団ニュース。目立つハコものに税金投与し、教育・福祉・文化がなおざりに…。(M4)

第20回親地連全国交流集会 「平和あってこそ子どもの本」/10/3(土)～4日(日)/国立リソニック記念青少年総合センター/3日午後:記念講演「地球はどうぶつでいっぱい」あべ弘士(絵本作家)、分科会・夜の交流会/4日午後:講演「アンネ・フランクからの伝言—ぼくたちは戦争をどう伝えていくか—」那須田淳(児童文学作家)/会員4000円(1日2000円)・非会員(+500円)/10/1(木)～4日(日)(入場無料):①平和の絵本展②『子どもと読書』表紙画展(佐藤真紀子原画)③『読みみかせ絵本250』所収の本展/問合せ 実行委員会事務局 04-2928-0129 (近藤)